第 17 回上伊那総合技術新校再編実施計画懇話会

日時：令和６年４月 30 日（火）
18 時～19 時 30 分
会場：長野県伊那合同庁舎　講堂

次 第

1 開　会

2 挨　拶

3 会議事項

（１）第 16 回上伊那総合技術新校再編実施計画懇話会まとめ　【資料１】

（２）今年度の検討事項の整理　【資料２】

ア　今年度の検討事項

・学びのイメージについて

・施設設備について　【資料３】

イ　開校年度について

ウ　令和６年度のスケジュール

（３）その他

4 その他

5 閉　会

上伊那総合技術新校「新校再編実施計画懇話会」構成員

○　座長

	区分	氏名	所属等	役職等
1	自治体	山田　勝己	辰野町	副町長
2		浦野　邦衛	箕輪町	副町長
3		田中　俊彦	南箕輪村	副村長
4		小平　　操	駒ヶ根市	副市長
5		笠原　千俊	伊那市教育委員会	教育長
6		◯ 加藤　孝志	宮田村教育委員会	教育長
7		片桐　　健	飯島町教育委員会	教育長
8		片桐　俊男	中川村教育委員会	教育長
9		唐澤　直樹	上伊那広域連合	事務局長
10	産業界	松井夕起子	辰野町商工会	代表
11		漆戸　豊徳	箕輪町商工会	代表
12		堀井　一政	南箕輪村商工会	工業部会長
13		山下　政隆	駒ヶ根商工会議所	副会頭
14		向山　賢悟	伊那商工会議所	副会頭
15	同窓会	林　龍一郎	辰野高等学校同窓会	会長
16		小河　節郎	箕輪進修高等学校同窓会	会長
17		清水　　満	上伊那農業高等学校同窓会	会長
18		湯澤　英喜	駒ケ根工業高等学校同窓会	副会長
19	ＰＴＡ	矢澤　弥彦	辰野高等学校ＰＴＡ	会長
20		岩井　直美	箕輪進修高等学校ＰＴＡ	副会長
21		若山　冬樹	上伊那農業高等学校ＰＴＡ	会長
22		坂間　真紀	駒ケ根工業高等学校ＰＴＡ	副会長
23	学校関係者	竹松　寿寛	上伊那中学校長会（赤穂中学校長）	副会長
24		片桐　広文	上伊那小学校長会（辰野東小学校長）	副会長
25		小池　景子	伊那養護学校	校長
26	学識経験者	松島　憲一	国立大学法人信州大学農学部	教授
27		工藤　賢一	南信工科短期大学校	副校長
28	地域	布山　　澄	上伊那地域振興局	局長
29	統合対象校関係者	茶城　啓二	辰野高等学校	校長
30		棚田　美穂	箕輪進修高等学校	校長
31		小池眞理子	上伊那農業高等学校	校長
32		福澤　竜彦	駒ケ根工業高等学校	校長
33		宮澤　奨英	辰野高等学校	生徒会副会長
34		酒井　輝也	箕輪進修高等学校	生徒会長
35		根津　柚希	上伊那農業高等学校	生徒会長
36		小山　将幸	駒ケ根工業高等学校	生徒会長

【事務局】

学校名	氏名（役職等）
辰　　野	齋藤　美幸（教頭）　小澤　潤也
箕　輪　進　修	岩田今朝宣（Ⅰ・Ⅱ部教頭）　倉田　誠司（Ⅲ部教頭）　井原浩一郎
上　伊　那　農　業	塩原　慎一（教頭）　山下　昌秀　境　久雄　相沢　哲也
駒　ケ　根　工　業	藤田　晶子（教頭）　竹内　浩一　甕　力　白石　敦子

	氏名	所属等	役職等
長野県教育委員会事務局	原　多恵子	高校教育課 高校再編推進室	主幹指導主事
	原　周一郎	高校教育課 高校再編推進室	主任指導主事
	内山みのり	高校教育課 高校再編推進室	主任指導主事
	高橋　正俊	高校教育課 高校再編推進室	主任指導主事

資料１

第 16 回　上伊那総合技術新校再編実施計画懇話会まとめ（案）

日時・会場	令和６年（2024 年）２月 13 日　18 時 00 分～19 時 30 分　長野県伊那合同庁舎
出欠席	懇話会構成員：出席者 26 名、欠席者８名（松井夕紀子、堀井一政、向山賢悟、矢澤弥彦、城取誠 宮下陽子、小林敏明、宮澤翔英） 事務局：県教委３名（中島主幹指導主事、田中主任指導主事、施設係・貝野主事） 辰野高校３名、箕輪進修高校２名、上伊那農業高校４名、駒ヶ根工業高校４名
	傍聴９名、報道５社
会議事項	（１）第 15 回上伊那総合技術新校再編実施計画懇話会まとめ（２）再編実施基本計画策定に向けて （３）今後の検討内容等について（４）その他
当日資料	第 16 回懇話会（資料）、ＮＳＤプロジェクト先行事例（別冊資料）

主な内容（意見及び発言等）

（会議の概要）

（１）　第 15 回上伊那総合技術新校再編実施計画懇話会まとめ

校地選定の結果報告について、上伊那農業高校の校地校舎を活用することに合意したことを確認。

（質疑）

・校地選定の結果報告について県教育委員会ホームページに掲載された資料を改めて確認すると、校地決定の理由からは削除することとなっていた「地区内の高校配置のバランス」が残っている。

→事務局として今後修正して掲載したい。

（２）　再編実施基本計画策定に向けて

①　ＮＳＤプロジェクトの理念について、及び上伊那総合技術新校（仮称）の施設整備について

・事務局から資料説明

（質疑）

・今後はＮＳＤと懇話会が並行して進むのか。

→ＮＳＤを進めるなかで設計業者が決まり、検討を進めるなか基本計画を考えワークショップ等行う。

その内容を懇話会で報告するため、並行して進む

・外観の話が中心で中身がイメージしにくい。設置学科や学級数からバランスを考えなければならない。

また、農工商に必要な設備を考えなければならないし、最先端の設備を入れてほしい。

それらがイメージしにくいなかでＮＳＤ、懇話会をどのように進めていくのか。

スケジュールなど分かりやすく示してほしい。

→懇話会や今後のスケジュールについては改めて説明する予定。

今後の流れを考えるなかで施設整備の考え方が重要になるため、まず説明させていただいた。

②　上伊那総合技術新校（仮称）の再編実施計画基本計画、及び学校像のイメージについて

・事務局から資料説明

（質疑）

懇話会としては、再編実施基本計画を県教育委員会でまとめ、次回懇話会でご提案いただきたい。

（３）　今後の検討内容等について

・ＮＳＤについて資料説明

（質疑・意見）

・技術の進展が早く、熊本県の大学校では学習内容に半導体が入ってきた。これから５年の中でも工業の流れが大きく変わっていく可能性があるが、どのように反映させていくか。また、いつまでに何を決めなければならないのか、既存のものを使わなければならないか、設備も新しいものが使えるか。

→基本計画の段階で大きな方向性を決めていき、設計段階では細部をきめていくこととなる。

建築が先行するが、内容についてギリギリまで検討し、建物が建ってからも日々ブラッシュアップを図る。ただし、県財政は厳しく使えるものは使っていく。新しい学びや新校に必要な設備については、しっかり整えていくのが県教委としての考え方である。

一方で、新しいものを入れていくのは大事だが、最新のものを入れてもすぐに古くなる。共学共創プラットフォームには地域資源・リソースを活用できるよう考えている。南信工科短大や最先端の設備がある企業でのデュアルシステムなども検討していく。フレキシブルラーニングエリアなど多用途に使えるエリアの設置も考える。皆さんの知恵を頂いてよりよい学校にしていきたい。

・設備校舎の話に終始しているが、中に入る生徒の話が必要だ。また、障害やジェンダーレスなど考える必要もある。そのためにもハードだけではなくソフト面の検討もしてほしい。出来てからも対応が可能なように。そういった知見のある専門家の意見も取り入れながら進めてほしい。
→多様性やインクルーシブ教育、個別最適な学びなどの視点が求められる。
視野を広くグローバルに、様々な立場で考え意見をいただき、よりよい学校を考えていきたい。
・より明るくきれいな実習室を考えてもらいたい。また、商業にも農業にも「流通」が含まれる。分野が分かれれば、学習しなくなるのか
→パソコン設備は部活動や生徒会活動でも利用する。金銭的な問題もあると思うが、これからは必須である。
学習については、商業や農業など分野ごとで学ぶこともあれば、一緒に学ぶこともあると想定している。
・広いというのは移動が大変で、限られた休み時間に移動をするのが大変である。使いやすいように施設の配置も考えてほしい。
→明るくきれいな実習室や使いやすいレイアウトなど、大きな船として方向性のなかに盛り込んでいきたい。高校生からも意見をいただきたい。
・開校が 14 年以降という話があった。出来れば、周辺の再編実施計画と開校のタイミングを合わせてほしいという意見もあった。一斉統合、年次統合などは統合の進め方はどうなるのか。
→学校間の距離もあり、３つの学科が１つの学校で学ぶ。上伊那農業には工業・商業の施設がない。できるだけ早く施設設備が整ったところで開校したい。伊那新校や赤穂新校とは開校時期に大きな開きがある。ただし、距離が離れているので、施設設備が整ったところでの開校、一体としての学びとして考えると一斉統合と考えている。校舎が出来て一か所での学びということを重視している。
・駅から高校までの通学路の安全性の検討について
→安全に通学できる環境については懇話会からも意見をいただいている。大切にしていきたい。
・子どもたちが毎日どのように通うのか、放課後に活動したいのに、遠方から通学する生徒は帰らなければならない。毎日のこととなると費用や時間など負担が大きい。一番遠いところから通う生徒のことを最優先で考えてほしい。
→子どもファーストで考えていきたい。
・「上伊那」として中川・飯島のメンバーを懇話会にも加えてほしい。辰野も通いにくい地区が出てくるなら入れる必要がある。通いにくい生徒・保護者や地域の意見も聞けるように体制を考えてほしい。
→検討していく。

その他
【次回】 日時：令和６年（2024 年）　月　日（　）　18：00～19：30 場所： 内容：

上伊那総合技術新校の学校像のイメージ

自己を磨き、みらいをデザインできる力を育てる高校

育てる生徒像

○上伊那で学び、**地域・社会を元気にできる**ひと
○専門性・社会性や人間力を育み、**地域や自分自身のみらいをデザインできる**ひと
○多様な人々との協働を通して、**主体的に行動し、学び続けることができる**ひと
○幅広い視野や、多様な価値観を持ち、**学びを活かして、社会に貢献できる**ひと

目指す学校像

○専門性を磨くとともに、学科の枠を越えた農工商の連携により、新たな価値観を創出し、地域・社会に貢献できる学校
○多様な生徒が「生き生き」と生活し、個人や社会の「ウェルビーイング*」を実現できる学校
○生徒が学んだことを活かし、自分自身の将来と地域・社会のみらいを創造できる学校
○上伊那の資源を学びや体験に活かし、協働的な学び、個別最適な学びを通して、生徒が成長できる学校

＊身体的・精神的・社会的によい状態にあること

多様で探究的な学び

総合技術高校で拓く上伊那のみらい

農　業
動植物の命や自然環境を通して、食料生産や環境保全を学ぶ
野菜･果樹･植物･動物･フード
アグリ･里山･グローカル

商　業
経済活動の実践を通して、ビジネスに必要な知識・技術を学ぶ
マーケティング・流通
会計・まちづくり・起業

工　業
ものづくりを通して、地域・社会を支える産業技術を学ぶ
情報技術・機械・電気

学びの連携プラットフォーム

興味･関心によって、他学科･コースの学びを選択し、専門性の幅を広げるシステム

- ミックスホームルーム
  3科融合したホームルーム
- 新たな単位認定
  学校外学修の単位認定
  学校間連携による単位認定 等
- 3科協働を支える施設
  プレゼンルーム・クリエイティブラボ（協働実習室）
  ウェルビーイングルーム（協働研究室）等

○学科の枠を越えた学び
学科の枠を超えた学びの実践により、「自然･環境」「産業･経済」「人間･生活」等の調和のとれた持続可能な社会の実現に貢献する資質･能力の育成

○みらいの産業界のつくり手の育成
様々な課題を理解し、イノベーション創出に貢献できる知識と行動力、汎用的･多面的な職業能力を育む

○３科連携により、１年次から地域で探究し、３年次には地域に発信する課題研究
○ＤＸ時代の専門教育（ＡＩ･データサイエンス･プログラミング･メタバース･ドローン等）
○経験や体験を重ねた実践力の向上を目指す専門高校ならではのキャリア教育
○専門高校での学びを最大限に活かした資格･検定への挑戦

学びを支えるデュアルプラットフォーム

地域連携コーディネーターによる連携　　デュアルシステムの構築

上伊那地域共学共創プラットフォーム

地域活性化や課題解決、さらにはイノベーション創出に貢献できる生徒を上伊那で育てるシステム

市町村　上伊那広域連合　信州大学　南信工科短期大学校　産業界
青年海外協力隊(JICA駒ヶ根)　各種学校(幼保小中高大特支)

資料２

上伊那総合技術新校　今年度の検討事項の整理

高校再編推進室

ア　今年度の検討事項

〇学びのイメージについて

「多様で探究的な学び」の実現をするために、上伊那地区という土地の特性を活かして、どのような学びが考えられるのかを検討する。

特に「学びの連携プラットフォーム」については３科が融合した学びとしてどのような可能性が考えられるのか、柔軟な発想で検討を進める必要がある。

一期再編の総合技術新校をさらに進めた「新たな総合技術新校」の姿を目指す。

- ●従来の産業分野を超えた複合的な産業の進展に順応する力の育成
- ●社会の変化に柔軟に対応する力の育成

【参考】一期再編の総合技術高校

・須坂創成高校

農業科３クラス（園芸農学・食品科学・環境造園）

工業科１クラス（創造工学）

商業科３クラス

・飯田 OIDE 長姫高校

工業科５クラス（機械工学・電子機械工学・電気電子工学・社会基盤工学・建築学）

商業科２クラス

・佐久平総合技術高校

農業科３クラス（食料マネジメント・生物サービス・食農クリエイト）

工業科２クラス（電機システム・電気情報）

〇施設設備について

NSD プロジェクト（Nagano School Design プロジェクト）

新校の開校に向けた所要施設（校舎等）の整備等については、従来の標準的な校舎整備によらず、新たな視点を加えて進めていく。

- ●新たな総合技術高校の学びを実現するために必要な施設設備の洗い出し
- ●現在の施設設備利用状況などを調査し、必要な諸室を検討
- ●「上伊那地域共学共創プラットフォーム」と連携した施設設備の活用
- ●最新の実習機器を利用できる機会や、企業と連携した実習などの取り組みを、地域と連携しながら進められる仕組みづくり
- ●地域連携コーディネーターを常時利用できるような仕組みづくり

イ　開校年度について

前回懇話会においての確認事項は以下の通り

開校年度：令和 14 年度以降の早期

校　　地：上伊那農業高校

学級規模：７学級程度　　ただし、新校開校時の募集学級数は、毎年度定める「長野県立高等学校生徒募集定員」により開校前年度に決定する。

・施設設備が整った段階で、一斉統合により開校

・上伊那農業高校校舎の老朽化　→　多くの施設設備を建て替える可能性が大きい

・現段階で、既存施設の要否や利用可能かどうかの判断をするための調査・検討が不十分

→　基本計画段階でのスケジュールの後ろ倒しや手戻りの可能性

◆学びのイメージと施設設備の洗い出しのさらなる具体化が必要

◆県議会に上程するためには開校年度の決定が必要

◆６月議会での上程を見送り、課題の検討を進め、令和 14 年度以降の早期開校を目指す

ウ　令和６年度のスケジュール

○上伊那総合技術新校再編実施計画懇話会

【主に２つのテーマ：学びのイメージについて、施設整備について】

・４回程度開催予定。進捗状況の報告と意見交換を基本とする。

・第 18 回：６～７月の開催を予定

①学びのイメージを基にした教育課程案

・第 19 回：９～10 月の開催を予定

①教育課程案進捗状況報告

②施設整備に関する検討事項報告

・第 20 回：11～12 月の開催を予定

①上伊那総合技術新校再編実施基本計画

・第 21 回：2～３月の開催を予定

①今年度のまとめと今後の予定

〇校内準備委員会の設置

校内準備委員会を設置し、新校に関わる準備を委員会中心に進められる組織づくりを行う。

「総務」　　…　学校運営全体の検討

「教育課程」…　新校のカリキュラム等の検討

「施設設備」…　学びに必要な施設設備の検討

資料３

Nagano School Design 2020＋A

Nagano School Design プロジェクト ～上伊那総合技術新校～

みんなでつくる未来の学校
「学校づくり-ひとづくり-地域づくり」

高校教育課
高校再編推進室

3

ＮＳＤプロジェクトとは【これまでの経過と理念】

施設の老朽化を考慮しつつ、必要な学校施設の整備を行う

1950年　文部省（現文部科学省）・日本建築学会
「鉄筋コンクリート造校舎の標準設計」を作成

長野県の県立学校でも、似たつくりの校舎が多数存在

この７０年ほどの間に社会は大きく変化

「学び」や「学び方」の変化に伴い、学校の「つくり」や「つくり方」を見直し
これからの時代 これからの学びにふさわしい学校空間の整備

教室棟（1968年建設）

4

県立学校学習空間デザイン検討委員会
最終報告書「長野県スクールデザイン2020」（2020年８月）

これからの時代：変化が激しく予想困難な時代

1　どんな時代や状況にも対応できる、フレキシブルな空間

これからの学び：主体的な学び、探究的な学び／個別最適な学び、協働的な学び

2　いろいろな学び・さまざまな人数 ⇒ 多様性をもつ学びの空間

学習空間の捉え直し：生徒・教職員・地域にとって必要な要素を包含した施設

3　「学習」・「生活」・「執務」・「共創」という4つの要素に整理

空間の「質」：子どもたちが活き活きと過ごす空間

4　機能性と快適性、空間の「重ね使い」、屋外とのつながり、家具などの重要性

地域と共生する学校：地域にとってのかけがえのない拠点施設

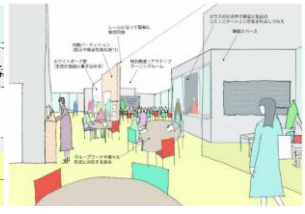
5　県の多様な自然環境・地域性を考慮、地域施設との連携や役割の分担を検討

5

県立学校学習空間デザイン検討委員会
最終報告書「長野県スクールデザイン2020」（2020年８月）

学 習 空 間

階段教室とフレキシブルホール



ＦＬＡ
（フレキシブルラーニングエリア）

生 活 空 間

ラウンジ・ロッカー

執 務 空 間

大職員室

共 創 空 間

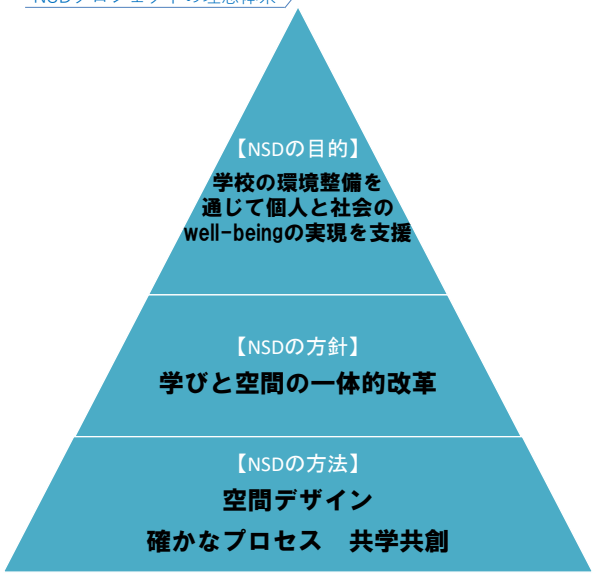
地域連携協働室

6

NSDプロジェクト

「学校づくり・ひとづくり・地域づくり」

NSDプロジェクトの理念体系



【NSDの目的】

『学校の環境整備を通じて
個人と社会のwell-beingの実現を支援』

長野県教育委員会が目指しているのは、『個人と社会のwell-beingの実現』すなわち、一人一人の多様な幸せとよりよい社会の実現。
NSDは、多様な価値観を持つ誰もが、激変する予測不能な社会の中でも柔軟に対応しながらよりよく生きていけるために、学びの質の向上と学び続ける個人と社会を支援していきます。

【NSDの方針】

『学びと空間の一体的改革』

NSDは、学びの質の向上と学び続ける個人と社会を支援するため、一人一人の多様な教育的ニーズに応える学びと空間の一体的な改革を進めていきます。
空間については、児童生徒や教員がいきいきと活動でき、地域の方々にとっても学びや交流の拠点となる豊かな空間を整備していきます。

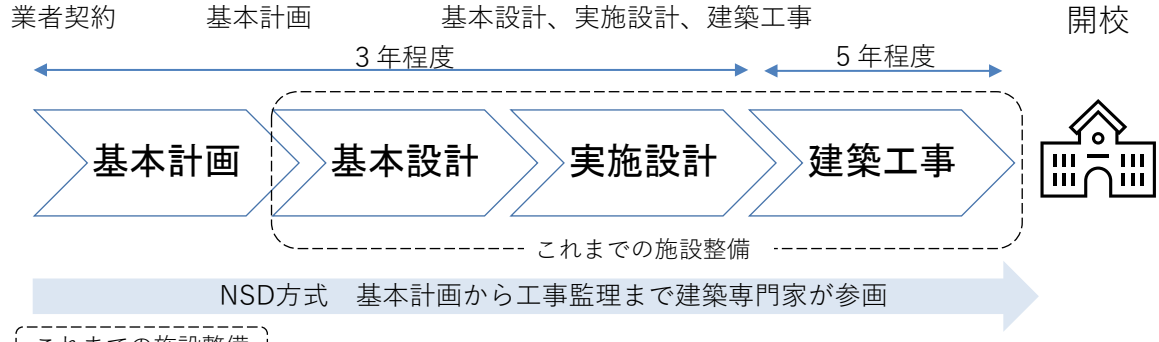
【NSDの方法】

『空間デザイン』『確かなプロセス』『共学共創』

「長野スクールデザイン2020」の提言をもとに空間デザインを行いつつ、また、ワークショップ等を通して、建築専門家と使用者となる学校や地域が意見交換を行い、使用者や建築専門家が基本計画の策定から関わるプロセスを大事にしていきます。
NSDを通して学校と地域が共に学び、新しい社会を共に創る、これからの時代にふさわしい学校づくりのプロジェクトを進めていきます。

7

施設整備のスケジュール（おおまかな予定）



これまでの施設整備

・基本計画について、県教委及び営繕部局で策定（画一的な施設整備）
・基本設計から建築専門家が参画（意見の反映できる幅がせまい）

NSDの施設整備

・基本計画から建築専門家が参画し、生徒、教員、地域と意見交換を重ねながら策定

生徒、教員、地域の意見を設計に反映しやすいプロセス！

8

NSDプロジェクト
各新校の進捗の様子はこちら

長野県ホームページより【URL】
https://www.pref.nagano.lg.jp/kyoiku/nsd/nsd_toppage.html

県立学校学習空間デザイン検討委員会
最終報告書「長野県スクールデザイン2020」はこちら

長野県ホームページより
https://www.pref.nagano.lg.jp/kyoiku/koko/dezain/toppage.html

9